



## 日本乳幼児精神保健学会 会長 あいさつ



会長 渡辺久子

LIFE DEVELOPMENT CENTER 渡邊医院

新しい日本乳幼児精神保健学会がこの春スタートしました。多くの課題に苦しむ全国の母子臨床現場によりそう乳幼児精神保健をめざし、日本乳幼児精神保健学会FOUR WINDS(FW)と世界乳幼児精神保健学会(WAIMH)日本支部がひとつになりました。統合までの道のりと新しい学会作りにご協力下さり、みなさまに心から感謝申し上げます。

新型コロナウイルスへの感染対策の国による違いを見ると、日本のマスクや手洗い、玄関で靴を脱ぎ、相手にはふれずにおじぎをする習慣には、文化的なソーシャルディスタンスが認められます。日本人は、地震、台風や疫病などの自然の猛威を生きのび、いのちのはかなさを痛感し、自然を崇め、自然の恵みに感謝し、注意深くお互いを守りあう知恵を培ってきたのでしょう。

新型コロナウイルスはあっけなく人類社会を崩しています。私たちは立ちどまり、考えることが必要です。生きるとは何か？それを乳幼児と母親の関係性から学び直すことができます。トレヴァルセンは、日本の「甘え」という「間主観性」の文化の意義を指摘します。赤ちゃんは社会脳を生まれながらに持ち、相手の意図と感情を察知する力をもちます。妊娠中から母親が幸せな笑顔でいられるよう周りが支えると、人への信頼の心が育ちます。

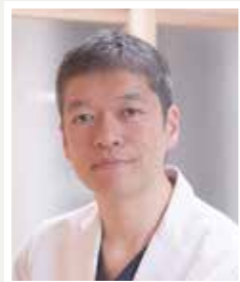
私たちは誰もひとりで生きることはできません。競争ではなく共存、共生こそが人間の基本です。コロナ禍の今、お互いに謙虚に自分をふりかえり、丁寧に相手の思いをうけとめあいましょう。

図1 【日本乳幼児精神保健学会新体制】



## 被災地支援委員会

委員長 菊池信太郎  
医療法人仁寿会 菊池医院



この度、新学会設立とともに常任幹事ならびに被災地支援委員会委員長を拝命いたしました菊池信太郎と申します。私は東京慈恵会医科大学を卒業後、慶應義塾大学大学院、関連病院で研修し小児呼吸器を専門とした小児科一般診療に従事してきました。平成22年4月に実家である福島県郡山市内の小児科医院に移り、現在は祖母から数えて3代目の院長を務めております。当院は小児専門の有床診療所として開業し、平成9年に病児病後児保育室を併設しました。現在は有床診療所を廃止し現在に至ります。

平成23年3月の東日本大震災とその後の放射線汚染事故により、当地は被災地として様々な影響を受けました。特に幼い子どもに与える影響は非常に深刻かつ長期に及び、継続的な子どもの心身の育ちを見守り育む活動が必要と感じております。震災同年の12月に、多くの方々のご支援をいただき、市内に屋内遊び場PEP Kids Koriyamaを開設いたしました。毎年30万人を越える親子が遊びに来ますが、いつの時代もいかなる状況下でも子どもの遊びを保障することは重要だと感じています。

コロナウイルスの感染拡大によって人々の日々の生活が大きく阻害されていますが、福島では2回目のNew Normal(新しい日常)、すなわちwith放射線の後のwithコロナです。我が国初のwith放射線の経験は、withコロナにも十分役に立つと信じています。この経験を糧に、国内各地で発生する災害とその後の復興に尽力する所存です。よろしくお願ひ申し上げます。

## 財務委員会

委員長 犬飼和久  
いぬかい小児科



新体制となり各委員会からの今後の活動内容が明らかになってきますが、活動を支える資金は会員の皆様からの年会費からの捻出です。現在会員は7,000円、賛助(法人)会員20,000円で年間収入は300万円に達していませんので喫緊の課題は会員数/賛助会員数を増やすことです。まずは幹事お一人おひとりが毎年1、2名の会員獲得にご努力願います。

対策としては全国大会や東京でのセミナー参加は費用がかさむため、オンラインで視聴できる環境を整えることで非会員が学会の良さを体験していただき入会に繋がるとか、法人会員獲得においての1つの提案として車代程度の費用で法人職員向けの年1回出前講座を開催する特典を付けることで会員数の増加が図れるのではないのでしょうか。ニュースレターと今までの講演記録の視聴で勉強できる会費7,000円を減額した準会員の制度を導入も一案かと思ひます。

幹事、および会員の皆様からの会員をいかにして増やしていけば良いか、ご意見、ご提案をお待ちしております。財務においては「入りを考え、出を制す」が肝心です。新たに事務局を創設、新規事業の提案もあり、できる限り支出を抑えるためには、幹事はじめ各種委員会でもできる限りZOOM会議で費用を抑えらるとともに、今後学会誌の印刷郵送費の削減を考えると電子化も検討課題になると思ひます。

## 広報委員会

委員長 香取奈穂  
慶應義塾大学病院



この度、日本乳幼児精神保健学会広報委員会の委員長を務めさせていただくことになりました香取奈穂と申します。小児科医で精神保健が専門です。このような役目を務めることは初めてで右往左往ですが、委員の竹内里和先生、藤井絹枝先生と共に頑張りたいと思ひます。

子どもたちが目をキラキラさせながら育っていくには、周りの大人が子どもとその養育者の声に耳を傾ける土壌が必要です。広報委員の役割は、乳幼児精神保健の基礎を啓発普及すること、そして学会を通して子どもを応援する多職種のたくさんの方々がつながり輪を広げていくことだと思ひます。

ますますメディア化していく世の中において、ホームページの役割が大きいことは言うまでもありません。会員の方も会員でない方も何度も訪れたい、魅力あるホームページを目指し、コンテンツを考えたいと思ひます。ホームページ担当の西坂来人さんにお力を借り、また教育研修委員会、学会誌編集委員会と連携しながら、ニーズに応えたものにしたいと思ひます。まず第1弾として「風の声を聴く〜現場から〜」と題して現場の先生方の声をお届けします。記念すべき第一回は澤田修先生にご執筆いただきました。各地で子どもたちと向き合っている様々な職種の先生方の声が、皆さんの力に繋がると思ひます。

コロナ禍、new normalの中で、新たな学会の発信力、皆さんとのつながり方を模索していきます。皆さんのお知恵も拝借させていただければと思ひます。どうぞよろしくお願ひ致します。

# 各委員会 委員長よりごあいさつ

## 教育研修・専門家養成委員会

委員長 平井正三  
御池心理療法センター



この度、教育研修委員長に就任した平井です。私は、ロンドンのタヴィストック・クリニックで児童青年心理療法の訓練を受けました。帰国後は、京都において子どもと大人の精神分析的な心理療法の私設相談室で臨床実践をしています。同時に、認定NPO法人子どもの心理療法支援会において、子どもと養育者への心理療法実践の支援と専門家への研修活動を行っています。本学会との関連でいえば、乳児観察訓練や乳幼児の発達研究を学ぶセミナーを実施したり、子育て支援の研修会やグループを主催したりしています。

私は、FOUR WINDSの時代にはそれほど関わってはいなかったのですがまだまだこれから本学会の教育研修にどのような形で貢献できるのか、手探りの状況ですが、渡辺久子先生をはじめ委員の先生方のご助言やご意見を伺いながら進めていきたいと思ひます。具体的には、会員の方々、どのような研修や訓練を受ければ、乳幼児の健やかな心の発達を手助けし、養育者を支える力量が身につくのかについて何らかの指針を示したり、スーパーバイザーや臨床指導者としてご依頼できる先生方などがわかりやすいようにしたりしていくことを現在考えています。

いろいろと未熟なところもあるかと思ひますが、皆さまのご意見やご要望を聞きながら学会として乳幼児精神保健のよりよい教育と研修が行えるように努めていきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

## 調査研究・学会誌編集委員会

委員長 川畑友二  
クリニック川畑



当学会は、「乳幼児の健やかなこころの成長を願ひ、その家族全体を支える」という共通の思いをもとに、多職種が集う学会です。学会誌は、我々の目指しているものを対外的に指し示す「場」として有用であるばかりでなく、それぞれの現場での臨床や研究も多種多様であるという他の学会にないユニークな面を生かす意味でも、職域を超えて、そして研究と臨床をつなぐ「場」として、その存在意義は大きいと考えております。

学会誌の創刊は2009年3月でした。研究会として1997年に発足した当初約10年間は、学術集会のたびにその大会を主催した地域主体で「記録集」を発刊していましたが、その中にはColwyn Treverthen、Bertrand Cramer、Tuula Tamminenなど海外からお呼びした著名な臨床家や研究者である先生方の講演も掲載されており、これらの「記録集」は今現在でもとても内容の充実した雑誌であると思ひます。そして、研究会から学会へ発展したことを受けて、より対外的にも我々の目指す姿を主張するために「学会誌」として発刊することになったわけですが、今回新たな学会として発進することになり、また新しい装いで出すことになりました。

乳幼児保健に関わるベテランの先生方のみならず、新しくこの世界に触れた方にとっても、素晴らしい刺激を伝えることができればと願ひしております。

## 倫理委員会

委員長 牧真吉  
日本福祉大学社会福祉学部



このような役割を引き受けるのは初めてのことでお断りすべきと思っていたのですが、そのまま受けてしまいました。考えてみたら、乳幼児を支援する学会で現場に重きを置いています。現場を支える倫理とは何なのだろうかと考え始めています。少なくとも正しいと思われることをすればいいという単純な現場ではありません。親自身が苦難の中からやっそこまて来た人が多く、そうした人を支えるのは、気持ちがわかって支えることができる必要があります。

わたし自身がこの学会で教えられたことは、助けを求めなさいということです。自分がすべてできなければならないのではなく、助けを求めて一緒にできるようになることです。親ができていないことを支えることから始めて、ゆっくりとともに進むことができます。まっすぐに歩むことが難しい体験をたくさんしてきました。それでも寄り添うことを求められます。こんなことでいいのかと悩んでしまいます。それを助けてもらうことが大事になります。そんな倫理を求めていきたいと思ひ、引き受けることにしました。

わたし自身は、15年精神科の現場にいて、1995年から児童相談所に移りました。15年、ここで一番鍛えられ、もっと乳幼児のうちにできることがあるのではと思うようになり、後半では乳児院に顔を出すようになりました。最後の5年は同じ名古屋児童福祉センターで療育の仕事をして、2015年日本福祉大学に移りました。

2021年 郡山大会テーマ

# 「大震災後10年 つむぐ子どもの未来」



大会長 成井香苗

東日本大震災後10年の節目の年に原発事故による放射線汚染を受けた福島で、記念すべき第1回大会を開催させていただくことは大変光栄に思います。テーマは、子どもの生命という縦糸に私たち支援者が横糸となって、どんな環境にあっても幸せな未来を子どもたちに紡いでいこうというものです。

福島を襲った放射線不安は、特に幼い子どもを育てる家庭を揺るがし、乳幼児の健全な発達を脅かしました。会員の菊池信太郎は安心安全な遊び場を作り、福島の子どもたちを日本一元気になるよう活動し、成井は親子の愛着を守り、親や保育士をエンパワメントすることで乳幼児の育ちを守る活動をしてきました。そこに、次々と自然災害や

新型コロナウイルスのパンデミックが起き、乳幼児を育む環境は危機が続いています。

放射線不安と新型コロナウイルス不安は、見えないものへの恐れや偏見・差別が起きるといっては共通ですが、支援者も感染リスクを負い触れ合いが難しく健康被害が即現れるという点で異なります。放射線不安への支援の知見を活かしつつ、コロナ禍の中でどう乳幼児の育ちを育むことができるか2つのシンポジウム「愛着と集団保育」「コロナ禍と放射線被害」を計画しています。なお学会長講演、外国来賓講師講演、市民公開講座、懇親会も開催します。感染対策のため、現地開催とWeb配信のハイブリッド方式で行う予定です。皆様のご参加をお待ちしています。

## ニュースレター編集部より

FOUR WINDSに引き続き、調査研究・学会誌編委員会ニュースレターを担当している青森県弘前市の松原です。小児科医です。本号は新学会となって初めての号です。そこで学会本部と会員の皆さまを繋ぐことを目的として、各委員会の委員長に会員向けのメッセージをお願いします。



今後は幹事会報告や総会報告だけでなく、各地域での会員

の活動報告、用語解説、学術集会の海外招聘講師の紹介、書籍紹介、随筆など様々なテーマでニュースレターをお届けしたいと思います。

会員の皆さまからの投稿もお待ちしております。乳幼児精神保健に関連することであれば何でも構いません。各地域の話題など広く募集致しますので、お名前、タイトル、所属を添えて300~600字程度でどうぞご寄稿くださいますようよろしくお願いいたします。

投稿原稿あて先：企業組合エコアド forest@ecoado.jp

## 事務局から お知らせ

### 新事務局体制

2020年10月、事務局が移転しました。これまで事務局として尽力下さったエコアド様に深謝致します。新事務局は福島県郡山市医療法人菊池医院内です。HPの充実、webセミナー準備等を進めております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

### 新ロゴマーク



新学会ロゴマーク誕生です。赤ちゃんを包むFOUR WINDSハットは、フィンランド・ラップランドの人々が雪の中、東西南北4つのトンガリと風を頼りに自分の道を進んだ所以のある帽子です。新学会もこの帽子と共に歩みましょう。

## 会費のお振込みは下記の口座をお願いします

- 1 ゆうちょ銀行振替口座 番号 00200-6-82510  
名義：日本乳幼児精神保健学会
- 2 ゆうちょ銀行通常貯金口座 記号 10940 番号 30141501  
名義：日本乳幼児精神保健学会

## 日本乳幼児精神保健学会 事務局

〒963-8871  
福島県郡山市本町 1-13-17 医療法人仁寿会 菊池医院内  
日本乳幼児精神保健学会事務局  
TEL 024-932-0154 FAX 024-932-0245  
E-mail info@japan-aimh.com  
https://www.japan-aimh.com/